

四明会たより

京都大学農学部四明會 2025年8月発行

ごあいさつ

四明會会長 田尾龍太郎
(農学研究科長・農学部長)



会員各位には、ますますご健勝にてご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。平素より、本会の活動に対しまして温かいご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

四明会では、令和7年度に学部318名、大学院修士課程304名、博士課程57名の新会員を迎え、総会員数は27,514名となりました。卒業と同時に本会へ加わった新たな仲間を歓迎するとともに、今後の四明会活動への積極的な参加と交流の広がりを期待しております。

昨年度には、新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限が完全に解除され、かつてのように対面での活動が全面的に再開されました。たとえば、益川記念ホールにおける新入生保護者懇談会、清風荘での観月会、旧演習林事務室およびザ・プリンス宝ヶ池にて開催された農学部卒業50周年記念同期生会など、いずれも現地での開催が実現し、多くの会員の皆さまにご参加いただきました。かつての仲間と旧交を温め、思い出を共有できたことは、大きな喜びであったことと存じます。今後も四明会では、世代を超えた交流と情報共有の場を大切にし、豊かな人的ネットワークを築いてまいります。会員の皆さまには、引き続き四明会の諸活動へのご参画を心よりお願い申し上げます。

さて、京都大学農学部は、令和5年(2023年)の創立100周年の機会に設立された「農学部100周年記念事業基金」により、農学部百年史の編集・発刊、記念国際シンポジウムの開催など、学術的かつ社会的意義のある多様な事業を展開いたしました。これらの事業は、農学の歩みを振り返るとともに、次の100年に向けた展望を発信する重要な機会となりました。基金の余剰分については、引き続き国際会議の開催支援、学生や若手研究者の渡航費助成、教育・研究環境の整備などに充当し、次代を担う人材の育成に活かしております。農学の発展と人材育成にご理解とご支援を賜りましたすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。

併せて、長年にわたり継続的にご支援を頂戴している「農学部教育研究基金」についてもご報告申し上げます。本基金は、農学研究科における若手研究者や女性研究者の育成、博士課程学生への

リサーチアシスタント(RA)支援などに幅広く活用されております。近年、博士後期課程への進学者数の減少が全国的な課題となっておりますが、本基金による支援は、こうした状況に対する重要な対策の一つとなっております。さらに、出産・育児期にある教員の研究・教育活動を継続的に支えるための制度にも活用され、男女共同参画社会の実現にも貢献しております。多くの名誉教授や会員の皆さまからお寄せいただいているご厚意に、改めて深く感謝申し上げます。お願いばかりで恐縮ではございますが、今後とも農学部および農学研究科の活動に対するご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

農学部および農学研究科は、2001年の学部学科および専攻の改組以降、大規模な組織改編を行うことなく、教育・研究両面で着実な進展を遂げてまいりました。しかしながら、この20年余りの間に社会環境や学術研究を取り巻く状況は大きく変化しており、現在の100年に向けた新たな改革の必要性が高まっています。

たとえば、国際連合食糧農業機関(FAO)などの予測によれば、人口増加と経済発展により、2050年の世界の食糧需要は2010年比で約1.7倍に達するとされています。これに対し、地球温暖化、戦争・紛争、環境汚染などの影響によって作物の収量低下が懸念されており、安定的かつ持続可能な食料生産体制の構築が国際的な課題となっております。さらに、近年の急激な円安や国際情勢の変動により、輸入に依存した日本の食料供給体制にも大きな影響が及び、食料安全保障への関心が急速に高まっています。

このような状況を受け、「生命・食料・環境」をキーワードに掲げる京都大学大学院農学研究科では、人類の持続的な発展と生存を支えるために、農を起点とした学術的な知の体系の深化と発展を目指し、改組を含む抜本的な再編の検討を進めております。将来構想検討委員会においては、現在の7専攻体制をより柔軟かつ機能的な大括り体制へと再編し、さらに国際食料システムに関する教育研究を行う研究センターも設置して、学際的連携と国際競争力を高める新たな体制づくりを目指して、議論を進めています。

また、宇治地区に分散している農学研究科の一部組織を、吉田地区へと統合する準備も進んでいます。令和7年度の概算要求において、フィールド科学研究センター新棟の建設が承認され、宇治地区からの移転に必要なスペースの確保にも目処が立ちました。これにより、長年の懸案であったキャンパス統合が実現に向けて大きく動き出しております。教育・研究活動のさらなる活性化、部局間の連携強化、施設利用の効率化など、さまざまな効果が期待されております。

会員の皆さまにおかれましても、京都大学農学部および農学研究科が、これからの時代にふさわしい教育・研究の在り方を模索し、社会に貢献し続けていけるよう、引き続き温かいご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

同窓会たより

◎農学科(KND)

KNDならびにゆりの木会の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。ゆりの木会は4月16日に新入生歓迎会を、6月1日に木津農場にて田植え会ならびに早苗饗を、11月16日にソフトボール大会を、2月14日に予餞会を行いました。

昨年の四明会たよりでのご報告以来、多くの人事異動がありました。2025年4月には育種学分野の山森晃一特定助教が岡山大学へ転出されました。また、2024年10月に雑草学分野に泉真隆助教が、2025年4月に育種学分野にSU ZHUO特定助教が、同年4月に蔬菜花卉園芸学分野に木下有羽助教が、同年4月に植物生産管理学分野に吉川貴徳准教授がそれぞれ着任されました。また、2024年10月に品質評価学分野の林由佳子准教授が教授に、2025年4月に果樹園芸学分野の山根久代准教授が教授に、同年4月に果樹園芸学分野のHsiang Tzu-Fan特定助教が農学研究科国際交流室の准教授に昇任されました。

末筆ながら、会員の皆様のますますのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(吉川 貴徳)

◎林学科(クローネ会)

クローネ会の皆さまにおかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。4月9日には旧演習林事務室にて、森林科学専攻の新入生に向けたオリエンテーションが開催されました。5月24日には上賀茂試験地にて、恒例の森林科学専攻新入生歓迎会が予定されていましたが、荒天の予報のため残念ながら中止となりました。

旧林学科の教員の異動につきましては、2025年3月に森林生物学分野の高柳敦准教授が定年退職されました。長年の本学科における教育と研究へのご貢献に深く感謝申し上げます。そして、2024年10月には森林育成学分野に鈴木華実助教(名古屋大学から)、2025年4月には森林生物学分野に山崎理正准教授(森林生物学分野助教から昇任)が着任されました。

令和6年11月9日に京都大学森林科学公開講座が京都大学宇治キャンパス木質ホールで開催されました。「森と木の生物学」をテーマに森林生態学分野・小野田雄介教授から樹木の生存競争と森林の成り立ちについて大変興味深い話題提供をいただきました。末筆ながら、会員の皆様の益々のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(宮田 秀介)

◎農芸化学科・応用生命科学科(専攻)(六成会)

六成会は旧農林化学科・農芸化学科の流れをくむ同窓会です。現在、農学研究科応用生命科学専攻の11研究室(細胞生化学、生体高分子化学、生物調節化学、化学生態学、植物栄養学、エネルギー変換細胞学、発酵生理及び醸造学、制御発酵学、生体機能化学、生物機能制御化学、応用構造生物学)と生命科学研究科の2研究室(分子細胞育種学、植物分子生物学)、応用生命科学専攻協力講座の5研究室(分子生体触媒化学、分子微生物科学、森林圏遺伝子統御学、森林代謝機能化学、木質バイオマス変換化学)、加えて、産学共同講座「産業微生物学」の学生と教職員で構成されています。

令和7年4月には、学部1回生49名が入学しました。大学院には応用生命科学専攻修士に65名(留学生10名)が入学し、同博士後期課程に15名(留学生3名)が進学しました(編入学2名含む)。また、生命科学研究科の2研究室には5名が修士課程に進学しました。入学式当日には新入生歓迎会を生協吉田食堂にて開催しました。ジュースやお茶で乾杯して軽食を食べながら、新入生の上手な自己紹介を皆で聞き、とても楽しい有意義な時間を過ごしました。

教員の異動については、制御発酵学分野 阪井康能教授と生物機能制御化学分野 三芳秀人教授が令和6年度末をもって定年退職されました。長年の本学科・本専攻における教育と研究へのご貢献に深く感謝申し上げます。阪井名誉教授は大学院総合生存学館において、非常勤講師・非常勤研究員として引き続き本学に在籍されています。新規採用としては、細胞生化学分野 永田紅助教(令和6年11月、同分野特任助教から)、生物機能制御化学分野 高岡洋輔教授(令和7年4月、東北大学から)が着任しました。また、制御発酵学 由里本博也准教授が教授に昇任しました(同4月)。

主要行事としては、農学部グラウンドでの研究室対抗ソフトボール大会が、スポーツ委員会を中心に開催されました。例年にも増して熱戦が繰り広げられ、春季大会は生物調節化学分野が、秋季大会は化学生態学分野が優勝しました。もう一つの主要行事である予餞会は、令和7年2月に時計台国際交流ホールで開催し、盛況に終えることができました。これからも六成会のつながりと伝統を継続させていきたいと考えております。会員の皆様には、くれぐれもご自愛の上、今後とも六成会へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

(由里本 博也)

◎農林生物学科(南窓会)

いつも旧農林生物学科同窓会活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。皆様にはますますご健勝のことと存じます。

現在、旧農林生物学科の研究室が所属する資源生物科学科では、3回生進級時にコースを選択する新制度が導入されています。旧農林生物学科と対応する「生物先端科学コース」は、植物遺伝学、栽培植物起源学、植物病理学、昆虫生態学、昆虫生理学、微生物環境制御学、生態情報開発学の全8分野で構成されています。今年度はコース移行2年目となり、各研究室には多彩な個性と意欲に満ちた学生が配属されました。研究室の枠を超えた横の連携も活発で、実験や演習を通じた交流が一層深まっております。これからも教員一同、コース制ならではの強みを生かし、学生一人ひとりを次代を担う研究者へと育成してまいります。

また、昨年の四明会便り以降、人事異動がございました。2025年4月付で昆虫生態学分野の高田守助教が准教授に昇任し、同じく4月から植物病理学分野にOgawaSu thitar助教が着任されました。新体制の下、旧農林生物学科が培ってきた自由闊達な研究精神を守りつつ、京都大学農学部らしい世界トップレベルの基礎生物学研究を推進してまいります。

南窓会の皆様には引き続き格別のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。末筆ながら、皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

(高田 守)

◎地域環境工学科(洛水会)(旧農業工学科,旧農林工学科)

晩夏の候、関係者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。現在の地域環境工学科の前身である農林工学科が設立されたのは、1924年であり、昨年2024年は洛水会にとって節目の100年を迎えました。また、今年の総会と懇親会は対面での開催となり有意義な時間となりました。

地域環境工学科での新しい話題として、本学農学研究科とヤンマーアグリ株式会社は、持続可能な食料生産の実現に向けて、産学共同講座「ヤンマーデータ駆動型サステナブル農業講座」を2025年2月1日に開始しました。当講座は、その活動内容からも地域環境工学科、地域環境科学専攻の教育や研究に関わることになり、今後のお互いの発展が期待されます。

昨年の総会以降の人事異動として、施設機能工学分野特定助教のMichael Conrad Koch先生が2024年10月末に京都大学を退職し、オーストラリア国立大学に異動されました。その後任には、Vikas Sharma先生が2025年1月に同分野特定助教に着任されました。また、生物センシング工学分野准教授の小川雄一先生が2024年6月末に京都大学を退職し、東北大学へ異動されました。さらに、2025年3月末をもって生物センシング工学分野教授の近藤直先生が京都大学を退職され、同年4月に神戸大学から黒木信一郎先生が同分野教授に着任されました。

最後になりますが、元愛媛大学大学院農学研究科教授の松尾芳雄先生(S50卒,S52修,S55博)が2025年1月にご逝去されました。松尾先生の当該分野に対する多大なるご功績に敬意を表するとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(野口 良造)

◎農林経済学科(洛友会)

この1年の洛友会の活動をご紹介します。

会報誌である「洛友会だより」は、これまで年末に発行していましたが、会計年度の変更に伴い今期より9月下旬発行に見直し第10号を発行しました。これとは別に、隔月で「洛友会Emailだより」を会員のEmailアドレス宛にお届けしています。

2024年11月2日(土)のホームカミングデーと合わせて総会を開催しました。総会の記念講演として2024年度末で定年ご退職を迎えられる秋津元輝教授にプレ退職記念として「農学原論という分野の立ち位置を考えるー概論講義とアクションリサーチをつなぎながらー」と題するご講演をいただきました。同講演は次のURLからご視聴いただけます(<https://youtu.be/qZMp5bHGZwo>)。

年が明けて2月7日には第2回目となる「農学部在校生とOB・OGが繋がる 就職マッチングワークショップ」を北部生協2階にて開催し、四明会にもご後援いただきました。参加学生、ご出展企業・団体も初回の規模を上回り盛況の内に終えることができました。関係各位のご協力に改めて御礼申し上げます。

5月23日(金)には、KKRホテル東京を会場に第9回東京洛友会を開催し、約40人の会員が集いました。記念講演として平成10年卒業の重藤さわ子氏(事業構想大学院大学 教授)に「農業と再生可能エネルギー(と脱炭素)」と題するお話をいただきました。同講演は次のURLからご視聴いただけます(<https://youtu.be/ty6HoYYjllw>)。

近年、会費納入の漸減傾向が続き、当今の物価高も相まって会の収支が厳しさを増していたことから、年会費を3,000円から4,000円へ引き上げました。値上げにより納入件数の減少が懸念されましたが、多くの会員からご理解を得ることができ、前年度をやや上回る納入件数となりました。

来期は、上記の行事に加え、秋の北部祭への模擬店出店も検討しています。これら取り組みを通じて現役生から卒業生までが繋がる同窓会活動を展開して会の一層の発展を目指します。

(鏡島 正信)

◎水産学科(緑洋会)

緑洋会の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。令和7年4月には、応用生物科学専攻の海洋系(旧水産学科)における教員の異動はございませんでした。

農学部資源生物科学科では、令和3年度入学生より3年生への進学時に4つのコース(海洋生物科学 最大定員24名、植物生産科学、応用動物科学、生物先端科学)のいずれかに所属することになっています。令和6年度には、いよいよコース制となって初めての4年生がコース内の分野(研究室)に分属し、課題研究等を経験して卒業いたしました。3年時にはコース別に週3回学生実験を行うことにより、メンバーが固定していますので、海洋クラスとして親密な人間関係が構築できているように感じています。また、令和7年度から、海洋コースの協力分野として、里海生態保全学分野(フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所)の益田玲爾教授・甲斐嘉晃准教授・鈴木啓太助教・邊見由美助教に加わっていただくことになりました。

最後に大変残念なお知らせです。海洋環境微生物学分野元教員の今井一郎北海道大学名誉教授が、2025年4月21日にご逝去されました。衷心より哀悼の意を表します。

(澤山 茂樹)

◎林産工学科(ユナリグナ)

ユナリグナの会員および会友の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨夏以降の旧林産工学科関係の人事についてご報告いたします。まず、樹木細胞学(旧木材構造学)分野の杉山淳司教授が2025年3月末をもって定年退職され、3月8日には「木材構造学の外へ」と題した最終講義が盛会のうちに開催されました。また、同分野の吉永新准教授が教授に昇任されました。林産加工学(旧林産機械学)分野の築瀬佳之准教授は生存圏研究所へのご転任され、森林生化学(旧バイオマス循環論)分野には河内護之准教授が新たに着任されました。さらに、生物材料化学分野(旧木材化学)には謝冰(Xie Bing)助教が着任されています。

同窓会活動に関しましては、2024年10月26日に第5回「関西ユナリグナ」が開催されました。当日は農学部の施設見学に始まり、総会、ミニ講演会、懇親会が行われ、30名を超える参加者が集い、世代を越えた交流が深まりました。

私は本年より、四明会の委員としてユナリグナ担当を務めることとなりました。私自身、旧林産工学科の最終期(1994年入学、第30回)にあたる世代として、時の流れを改めて実感するとともに、今後の「ユナリグナ」という枠組みの在り方についても、思いを巡らせることもございます。とはいえ、東京・関西それぞれの同窓会が継続されて

いることは、大きな支えです。今後もこうしたつながりを大切に、情報発信にも努めてまいります。

最後になりましたが、会員および会友の皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(寺本 好邦)

◎食品工学科・食品生物科学科(専攻)(中陽会)

中陽会の皆様におかれましては、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。本学科・専攻の最近の動きと人事異動をご紹介します。

中陽会の企画としましては、学科の卒業生と専攻の修了生を送り出すための中陽会の歓送会を京都大学百周年時計台記念館国際交流ホールにて2月17日に開催することができました。卒業式と修了式は予定通りに行われ、食品生物科学科4回生35名が卒業し、同専攻の修士課程2回生34名が修了いたしました。また、3名が博士後期課程を修了されました。4月7日には中陽会の総会ならびに新入生歓迎会を農学部総合館W522講義室にて実施し、中陽会会長の橋本渉教授には中陽会の歴史と伝統に関するご説明を、食品生物科学科長の塚野千尋教授には本学の学生としての心得などをお話いただきました。令和7年度は、食品生物科学科1回生34名および同専攻修士課程7名を新たな会員として迎えました。その後の懇親会は、京都大学百周年時計台記念館国際交流ホールで行いました。新入生が自己紹介を行い、教職員・在学生や他の新入生との親睦を深めました。

次に、昨年「四明会たより」記載以降の教職員の異動についてご報告いたします。令和6年4月1日付で生命有機化学分野の塚野千尋准教授が同教授に就任いたしました。令和7年3月31日付で酵素化学分野の保川清教授および生命科学研究科生体情報応答学分野(農学部兼担)の永尾雅哉教授が退職いたしました。令和7年4月1日付で栄養化学分野の小栗靖生助教が奈良女子大学大学院生活環境学部食物栄養学臨床栄養学分野の専任講師として転任いたしました。同日、酵素化学分野の滝田禎亮助教が生物機能変換学分野助教に配置換えとなりました。また、令和7年4月1日付で大阪医科薬科大学医学部の藤橋雅宏准教授が酵素化学分野の教授に着任いたしました。

最後に、会員の皆様におかれましては、中陽会の発展のため、今後とも格別のご支援を賜りますよう、心よりお願いを申し上げます。末筆となりましたが、皆様の益々のご活躍を祈念いたします。

(大日向 耕作)

◎畜産学科(はくび会)

はくび会、かすみ会、カトリア会の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。

まず教員の異動について紹介させていただきます。令和6年4月には

畜産資源学分野の大石 風人助教と塚原 洋子特定講師が共に准教授に昇任されるとともに、同分野に瀬戸口 暁特定助教が着任されました。応用動物系5分野(動物遺伝育種学分野、生殖生物学分野、動物栄養科学分野、生体機構学分野および畜産資源学分野)一同、元気に研究・教育に励んでおります。

ここ数年間は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、行事が相次いで中止となっておりましたが、令和5年から各研究室の行事ならびにはくび会の活動も再開されました。恒例のソフトボール大会も令和6年からは従前通り春開催となり、白熱した好ゲームが続いております。また、はくび会で管理している畑は2年連続で動物遺伝育種学分野が担当して様々な野菜を育てています。今後とも応用動物系全体で親睦を深め、はくび会としての関係性がより強固なものとなることを心より願っております。

応用動物系5分野は農学部総合館北東部の2階から4階にかけて居を構えています。お近くにお越しの際は、お気軽にお立ち寄り下さると幸いです。

(横井 伯英)

◎熱帯農学専攻(熱田会)

熱田会のみなさまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

年の一度のこの原稿に時候ネタを書くのがなかなか難しいのは、原稿の依頼時期が6月でいつも梅雨のお話になってしまうからなのですが、今年ちょっと例外的に季節のお話から。執筆時点の今日はまだ6月のうちではありますが、今年はずでに梅雨明けとなっています。気象庁が記録を取り始めてから最短での梅雨明けだそうです。今日の京都市の最高気温は37℃との予想。6月末がこんなに暑かったことはなかったような気が個人的にもいたします。温暖化という言葉はすでに聞き慣れてしまい、そのこと自体に新鮮味はないですけど、このままどうやってゆくのだらうと思ってしまうですね。担当している授業などでよく、このまま日本が温暖化してゆくとして、どういう農業を行う必要があるだろうかと学生に問うてみますと、熱帯作物を栽培すればよいだろうという答えが返ってきます。熱帯作物栽培の研究をする必要がありそうです。じゃ熱帯の人々はこのさき何を栽培すればよいでしょうかと問えば、答えは返ってきません。もう植えるものがないんじゃないか、というのが現状ではかなり正解に近いと思います。ちょっと怖い感じです。世界中が熱帯みたいになったら熱帯農学はなんだか意味がなくなってしまうそう。静かに消えてゆくのでしょうか。ところで、熱田会は旧熱帯農学専攻の同窓生組織ですが、すでに専攻は「発展的解消」して幾年月。新規入会はもはやありませんから、組織の高齢化が高速進行中であります。私は最後の世代の1人でありまして、その私もそろそろ引退かということになって参りますと、このまま静かに消えてゆくのでしょうか。

会員のみなさまのますますのご健勝をお祈り申し上げます。

(樋口 浩和)

個人情報保護について

四明會名簿は会員の親睦を目的として作成しています。名簿の利用者・対象者を限定しており、目的外の使用は固く禁じます。皆様の個人情報及び皆様からいただいた情報の管理、取扱いに際し、関連する法令を厳守し、厳重に管理いたします。

京都大学農学部卒業50周年記念同期生会

京都大学農学部は大正12(1923)年、勅令第489号をもって京都帝国大学に7つ目の学部として設置され、翌年4月入学生を受け入れ、昭和2(1927)年3月には第1期生61名の卒業証書授与式が執り行われました。

昭和52(1977)年5月19、20日の両日、農学部第1期生卒業50周年記念同窓会が開かれ、当時ご健在の卒業生30名中16名の方々が参会、懐旧談に花が咲き夜遅くまで懇談されたと昭和52年11月発行の四明會名簿第26号に記載されています。

以来開催の時期は多少異なりますが第2期生の会、第3期生の会と続き、近年は京都大学同窓会のホームカミングデイの前日に開催されています。数年前からは大学院から入学された方にも参加を呼び掛けています。

昨年は昭和49(1974)年3月に学部を卒業された方々の卒業50周年にあたり、昭和51(1976)年修士修了の方々の会を11月1日(金)に開催いたしました。

今年は例年同様ホームカミングデイの前日令和7年(2025)年10月31日(金)に、昭和50年卒業、52年修了の方々の記念同期生会開催を予定しています。

例年は参加者の中から報告を執筆していただき写真とともに掲載していますが、今年は事務局で執筆しました。

(四明會事務局)



京都大学農学部卒業50周年記念同期生会（昭和49年、昭和51年修了）2024.11.1 於 ザ・プリンス京都宝ヶ池

京都大学農学部令和7年度入学生保護者懇談会

四明會では学部入学生の保護者の方々を対象に、令和6年と同様に入学式当日の午後に「京都大学農学部入学生保護者懇談会」を対面形式により昨年と同様に益川ホールで実施することができました。158名の方が参加しました。

農学部の新入生が農学部全体のガイダンスを受けている時間帯に保護者の方々に集っていただき、新入生のこれからについての情報等を教員から提供し、その後に保護者の方々から出される質問に答えるという形式で進められました。

今回の内容は、四明會会長(農学部長)田尾龍太郎先生のご挨拶、四明會事務局からの四明會についての説明、農学研究科副研究科長栗山浩一先生から「学生生活について」、農学研究科副研究科長木岡紀幸先生から「卒業後の就職について」、農学研究科副研究科長高野俊幸先生から「農学部カリキュラムの特徴について」という講演が行われました。講演後、保護者の方からの質問もあり、懇談会は盛況のうちに終わったと思います。アンケートでは、回答された多くの保護者から懇談会の講演の内容に「満足している」との回答をいただいています。

来年度も、対面型のみで実施する予定にしております。今後、さらなる内容の改善策を検討し、より充実した懇談会となるようにしてまいります。

最後に、四明會では恒例となっておりますソフトボール大会、各同窓会への支援、農学部卒業50周年記念同期生会、農学部・農学研究科OB・OGを招聘してのキャリア・就職懇談会の行事を引き続き実施・開催して参ります。今後とも四明會へのご理解とご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(四明會事務局長 中久保隆雄)

同窓会・クラス会報告

同窓会活動の活性化を目的に、学科、専攻、分野ごとに開催する同窓会・クラス会で、一定の条件を満たす場合に経費の一部を支援する「同窓会・クラス会支援制度」を実施しています。今回は3件の報告が寄せられましたのでご紹介します。みなさまのご報告をお待ちしています。

昭和50年農林生物学科入学同窓会(第3回農林生物学セミナー開催)

昭和50年農林生物学科入学者は11名と少ないですが、還暦を機に隔年ペースで「農林生物学セミナー」を開催しています。これは同窓会として集まるだけでなく、様々な技術分野で活躍してきた同窓生メンバーが輪番で各々のライフワークの一端を講演会形式で語りあうものです。これで3回目となりますが、今回は医学系の講演となりました。

第3回農林生物学セミナー(2024年11月16日)

【会場】 日本新薬(株)山科植物資料館(京都市山科区)

【参加者】 秋田徹、川田均、北宜裕、鈴木亮平、長久保有之、前川真見子、森正憲、矢野俊彦

【セミナー講師】 愛知学院大学歯学部解剖学講座 元准教授 前川真見子さん

【演題】 『哺乳類における性決定のしくみ — 男? 女? それとも??』

【内容】 哺乳類(ヒト、マウス)の性決定の仕組みについての話でした。前川さんグループ(愛知学院大)の研究結果によると、哺乳類の性決定に関わる因子SF-1の遺伝子改変マウスでは、オスの内性器、外性器がメスとの中間型を示すことが確認されました。すなわち哺乳類の性は固定されたものではなく、柔軟に変化する多様なものと考えられるという話でした。

【感想】 多様な性のあり方(LGBTQ等の性的マイノリティ)について理解が深まりつつある今日ですが、どちらかと言うと「偏見をなくそう」的な精神面にばかり気持ちが向いている部分もありがちです。そうではなく医学的・生物学的見地から見ても性分化には色々なパターンがあり、性決定が簡単ではないケースが多くあるということがよく理解できました。

当学年では、今後も継続的にこの「農林生物学セミナー」を開催していく予定です。

(生54 矢野俊彦)



「四明会たより」への寄稿のお願い

「四明会たより」は年1回の発行です。今後も紙面の充実を図りたいと考えています。各地域や各学年における同窓会の活動を会員の皆様にご紹介したいと考えていますので、ご寄稿をお待ちしています。

また、こんな記事を読みたい等のご希望がありましたら事務局までお知らせください。

(締切随時、400字程度、写真があれば添えてください)

E-mail: shimei@kais.kyoto-u.ac.jp

京都大学雑草学研究室50周年記念同窓会 2025/3/14

1974年4月に雑草学研究室が設立されてから50年が過ぎました。この間、植木邦和先生、草薙得一先生、伊藤操子先生、富永達先生が歴代の教授を務められてきました。数多くの学生を輩出し、数多くの研究成果を出して日本の雑草学を牽引してきた研究室です。伝統ある京都大学雑草学研究室の50周年を記念し下記の通り同窓会を開催いたしました。

記

開催日時:2025年3月1日(土)14:00-16:30

記念講演会(農学・生命科学研究棟1階セミナー室1)

1. 伊藤操子名誉教授
2. 富永達名誉教授
3. 泉真隆助教

懇親会(京都大学北部生協)17:00-19:00

講演会では、伊藤先生には「設立50周年に思うこと雑草研の30年+その後の20年」と題しご講演いただきました。設立時から教員として務められた伊藤先生の貴重なお話をいただきました。いまだ現役で雑草問題に取り組まれている先生のお話には重みがあり、これからの雑草学を担う現役世代には大変刺激となりました。富永先生には「雑草研の研究活動-2005年4月から2021年3月-」と題しご講演いただきました。アスリートである富永先生ならではの体育会系的な活動の話がとても興味深く、当時の同窓生のみなさんも懐かしく聞かれていました。現役の助教である泉先生は2024年10月に着任したばかりの新人です。泉先生には「雑草学の更なる発展に向けて」と題しご講演していただき、これからの雑草学を担っていく人として未来を語ってもらいました。

懇親会では、23年間雑草学研究室を陰で支えていただき今年度限りで事務補佐員を退職される小林祐子さんに感謝の気持ちで記念品と花束を送りました。小林さんからも思い出話をしていただきました。恩師の先生方を囲んで思い出話に花が咲き最後まで大盛り上がりで、二次会に繰り出すなど大盛況な同窓会となりました。

(農学研究科雑草学分野 黒川俊二)



京都大学雑草学研究室50周年記念同窓会出席者名簿

氏名(敬称略)

浅井元朗、石田里絵子、一箭 翼、伊藤幹二、伊藤松雄伊藤操子、今泉智通、伊山幸秀、太田健介、大森彩子、尾崎由布子、角龍市郎、上山知剛、川又栄美、倉田康平、江田貞文、小西真衣、小林祐子、小林由佳、酒井マリ、定 由直、下村晃一郎、大門奈那子、高木圭子、田中 聡、土井(日野)倫子、富永 達、野村康之、橋本宗明、浜田暢之、樋口裕美子、深澤正徳、古元隆行、松本比呂起、眞鍋陽平、三浦励一、森田亜貴、森田里絵、守本優希、山脇孝博、我妻 総、星(小笠原)薫、吉野裕基子、久保朋美、乾未樹、北絢斗、櫻井優香里、宮井駿、角本柚香、黒川俊二、下野嘉子、泉真隆

同窓会・クラス会の報告について

平成30(2018)年より同窓会・クラス会支援制度がスタートし、その報告を令和元(2019)年から掲載しています。昨今はコロナウィルスの影響で同窓会・クラス会の開催が少なかったようですが、今後は多くの会の開催と報告を期待しています。

S61農芸化学科卒同窓会

昭和57年農芸化学科入学、昭和61年卒業、昭和63年農芸化学専攻の同窓会を令和7年5月10日に開催しました。卒業後40年目にはいったこともあり、いままで連絡先不明になっていた人の連絡先も探し出して連絡した結果、25名というたくさんの農芸化学科(専攻)参加者と当時教員として私たちの面倒を見てくださった中川先生、さらに教養の時に同じクラスだった農林生物の同級生2名の合計28名が集まりました。当時ソフトボールをよくやっていた農学部グラウンドを見学したのち、農学部総合館の教室を借りて近況報告を行った後、恩師藤田先生が好きだったビアホールで当時を懐かしみました。



中川好秋 先生、奥野貢広、尾嶋岳彦、片岡道彦、蒲池晴美(高田)、木岡紀幸、木下勝敏、小泉 望、草苺 健、佐野 智、佐野 亨、白崎良成、中村英明、西田 徹、林 哲良、伏見文良、富士 章、前田広景、松田純子(岡谷)、的場好英、三木啓司、村瀬淳子(河野)、村田伸治、森田 滋、森本郁徳、森 直樹、中山政治 S61卒農林生物、石井尊生 S61卒農林生物

同窓会・クラス会支援制度について

同窓会活動の活性化を図るために、学科、専攻、分野ごとに開催する同窓会・クラス会で、一定の条件を満たす場合に経費の一部を支援します。

【条件】

- ①10名以上の参加者があり、当該年度の年会費または終身会費の納入者が参加していること
- ②参加者名簿、開催報告、写真を提出すること(開催報告、写真は四明会たより、ホームページに掲載する)
- ③学科同窓会が主催するものは対象外

【支援】

1回につき1万円とし、年1回を限度とする。

【手続き】

- ①四明會事務局に上記の書類を添えて申請する。
- ②四明會事務局において審査の後、指定口座に振り込む。

ホームページについて

ホームページではいろいろな活動の告知や報告も掲載しています。随時更新していますので是非ご覧ください。

URL : <https://www.shimeikai.kais.kyoto-u.ac.jp/>



近況報告

毎年8月に「四明会たより」とともに名簿調査はがきをお届けし、住所等に変更がある場合のみ返送していただいておりますが、年齢を重ねると住所等が変わることも少なくなり、十年以上も連絡をいただいていない方がいらっしゃいます。そこで、最近卒業後70年以上の方は住所等に変更がない場合でも近況をお知らせくださいとお願いしております。昨年は70年以下の方も含めたくさんの方から近況をお知らせいただきましたので、ご紹介します。お名前は伏せさせていただきます。

- 経23**
おせわになりました。(二女筆)
- 工24**
長い間お世話になりました有難うございます。
皆様の御健勝を心からご祈念しております。(妻筆)
- 化25**
いつもお世話になっております。
今年2月、父が亡くなりましたので、ご連絡させていただきます。
今までどうも有がとうございました。
- 生25**
長年お世話になりましたが、父は今年亡くなりました。
これまでのご厚情に心から御礼申し上げます。(長女筆)
- 農26**
年齢相応の日常生活を送っています。
会の発展を祈っております。
- 化26**
御會の会員である父が他界いたしましたことをご連絡申し上げます。
存命中はお世話になり有難うございました。亡き父に代わり御礼申し上げます。
ご連絡が遅くなりました事お詫び申し上げます。(長男筆)
- 化27**
会員であります夫は既に亡くなっておりますので、会報その他の御送付は遠慮させていただきます。
貴会のご発展をお祈り申し上げます。(妻筆)
- 化27**
ご連絡が遅くなり申し訳ありません。
父は8月1日に亡くなりました。
いろいろと、ありがとうございました。(長女筆)
- 化28**
父は2023年に永眠いたしました。
生前に賜りましたご厚情に深く感謝いたしますと共に皆様のご活躍をお祈り申し上げます。(長女筆)
- 林29**
2年前からパーキンソン病からと脳梗塞で、現在、要介護5となっております。経管栄養実施状況です。
大変お世話になりまして、有りがとうございました。(妻筆)
- 経29**
とても母校を愛していました。
母校の地、京都で眠っています。(長女筆)
- 化31**
2022年4月から老人ホームに入居しており、現状会話ができる状況にはありません。
これまで父がお世話になり大変ありがとうございました。(長男筆)
- 化31**
2024年2月、享年93で身罷りました。
老令の生活を感謝しつつ楽しんでおりましたのに突然の事、人生の幕を下されました。
皆様には大変お世話になりました。お身体御自愛下さいませ。(長男筆)
- 林31・林33修**
90才を超え、さすがに加齢によるいろいろは、ありますが、基本的には元気で穏やかに暮らしております。
本年1月には、25年以上前に出した本の続編を出版しました。(息女筆)
- 林32**
91才になりました。
何とか無事の日々です。
- 林32**
90才。
達者です。
- 化33修**
此の度は四明会のお知らせ誠に有難うございました。
実は、主人は昨年十一月に亡くなりました。
長い間皆様にお世話に成り誠に有難うございました。
今後、この会が長く続きます様お祈り致します。(妻筆)
- 林33**
本年8月末に91才となりましたが、杖老人で一応まだ元気です。
- 農34修**
昨年逝去しました。
今までお世話になりありがとうございました。
生前、名簿、たより等いつも楽しみにし、京大で学んだことを懐かしんでおりました。
京大の益々の発展をお祈りします。
今までありがとうございました。(息女筆)
- 農35**
2022年12月死去しました。
退官後は岐阜県に居りました。
最後まで京都へ行きたいし申して居りました。
ありがとうございました。(妻筆)
- 化35**
令和6年1月に死亡いたしました。
四明會に参加してとても喜んでいました。
今までありがとうございました。(妻筆)
- 経37**
父が死去致しました。
生前お世話になり有難うございました。(息女筆)

経37

2023年4月に脳梗塞にかかり、6月に退院。
妻に先立たれ独り住まいのため、現在は、長男の家の近くの老人ホームに転居しています。

化38

夫は2024年3月に他界致しました。
長い間お世話になり有難うございました。
四明會の発展をお祈り致します。(妻筆)

化38

益々のご繁栄を祈ります。

林38

長く大変お世話になりました。
ありがとうございます。
お礼まで(妻筆)

経38

2023年12月より体調不良。
入退院くり返し実施、外出時は、車イスで介護タクシーを利用して
いる状況。

生39

長い間お世話になりました。
夫は85才で亡くなりました。
生前の御好意誠に有難うございました。(妻筆)

経39

大変お世話になり有難うございました。(妻筆)

化39化41修

父は施設に入所しましたので、たより等は送っていただかなくて結構です。
今までありがとうございました。(長女筆)

化42化44修

令和6年4月に亡くなりました。
生前中はお世話になり、ありがとうございました。(妻筆)

工45修

父は2024年2月に亡くなりました。
今までお世話になりましてありがとうございました。(長女筆)

食46食48修

返信が遅れてしまい申し訳ありません。
生前はお世話になりありがとうございました。
京都大学卒業の父は、これからも私にとりまして自慢の父です。
皆様の益々のご活躍と御多幸をお祈り申し上げます。(息女筆)

産52

1～3月はスキー場
4～12月はテニス、トレッキング

林53

今年の4月に死去いたしました。
長年お世話になりました。(妻筆)

産54

2024年3月末で全ての(給料がもらえる)仕事を辞めました。
わずかなアパート経営と農業(野菜づくり)で生計を建てています。
退職とほぼ同時の2024年6月に41年連れ沿った妻が、ガンで亡くなりました。
まだ働けると思っていますので、面白い仕事ありましたら連ください。

工59工61修

夫は7年前に亡くなっております。
私も気持ちの整理等ご連絡に時間がかかり申し訳ありませんでした。(妻筆)

林平9

いつもとりまとめ、ありがとうございます。

農平10農平12修

元気しております。
今も農業や食品に関する業務を行っており、日々学びがあります。

産特

ずっとご連絡しておりませんでした。父は平成17年に他界しております。
今頃になって申し訳ございません。
長い間ありがとうございました。(長女筆)

会費納入のお願い

2025年度(2025年4月～2026年3月)四明會
年会費1,500円を同封の払込取扱票(A4サイズ、
宛名票とで同じシート)で、コンビニまたは郵便局
から振り込みくださるようお願いいたします。

60歳以上の方でご希望される場合は終身会費
(2万円)の制度もございます。どうぞご利用くだ
さい。

会費納入方法については同封の「2025年度
四明會会員状況調査と会費納入について」をご覧
ください。ご不明の場合は事務局までお問合せ
ください。

「京都大学農学部四明會 VISAカード」について

「四明會VISAカード」はご存じでしょうか。三井住友カード(株)と提携して発行しているクレジットカードで、デザインに農学部正門を取り入れた親しみやすく、ステータスと独自性にあふれたものです。このカードはVISAカードとして、広く国内、国外の加盟店でご利用いただけ、ご利用の都度提携手数料が四明會に入ります。昨年は約22万円の手数料が入りました。四明會の会費もこのカードで支払いできます。一昨年からの加入がインターネットからできるようになりました。未加入の方はぜひご加入ください。

右のQRコードから入会ページにアクセスできます。
四明會のホームページにもリンクを設けています。



四明會會員数一覽

2025/7/1現在

学科・専攻	卒業・修了年	合計	物故	学外	学内	住所無効	海外
農学	昭和2～平成13	1,765	711	707	6	297	44
林学	昭和2～平成11	1,674	664	602	13	360	35
農芸化学	昭和2～平成13	2,966	1,081	1,279	24	510	72
農林生物学	昭和2～平成17	987	343	440	15	160	29
農業工学	昭和2～平成14	2,031	550	1,020	12	390	59
農林経済学	昭和2～平成13	2,617	1,140	795	8	632	42
水産学	昭和25～平成12	1,119	240	457	11	386	25
林産工学	昭和44～平成12	1,005	61	572	23	311	38
食品工学	昭和46～平成12	1,246	53	839	16	289	49
畜産学	昭和51～平成12	647	21	372	9	215	30
熱帯農学専攻	昭和58～平成10	90	4	29	5	15	37
生物生産科学科資源生物科学コース	平成11～平成19	484	1	206	10	256	11
生物生産科学科生産システム学コース	平成11～平成21	112	1	62	2	45	2
生物機能科学科応用生命科学コース	平成11～平成19	546	5	283	13	235	10
生物機能科学科生物材料科学コース	平成11～平成21	147	1	66	2	77	1
生産環境科学科生物環境科学コース	平成11～平成17	146		56	4	83	3
生産環境科学科地域環境創造学コース	平成11～平成17	184		89	5	87	3
生産環境科学科生物資源経済学コース	平成11～平成19	168	1	58	2	107	
資源生物学科	平成17～	1,969	3	812	221	928	5
応用生命科学科	平成17～	1,045	2	490	112	423	18
地域環境工学科	平成17～	769	5	443	76	243	2
食料・環境経済学	平成17～	666		293	39	331	3
森林科学科	平成17～	1,188	1	386	158	639	4
食品生物学科	平成17～	736	1	331	78	321	5
農学専攻	平成11～	265		97	14	136	18
森林科学専攻	平成10～	549	1	176	24	281	67
応用生命科学専攻	平成11～	800	3	410	45	288	54
応用生物学専攻	平成10～	512		168	32	283	29
地域環境科学専攻	平成9～	501	1	163	22	238	77
生物資源経済学専攻	平成9～	299		98	25	150	26
食品生物学専攻	平成15～	280	3	112	12	122	31
合計		27,513	4,897	11,911	1,038	8,838	829

農学科から畜産学科：学部卒業、修士修了、博士修了、特別会員
 熱帯農学専攻、農学専攻から食品生物科学専攻：修士修了、博士修了、特別会員
 生物生産科学科資源生物科学コースから食品生物科学科：学部卒業

四明會令和7年度役員名簿

会 長 田尾龍太郎
 副 会 長 樋口 浩和
 監 事 高田 守
 〃 横井 伯英

常任委員

農学専攻 桂 圭佑
 森林科学専攻 小杉賢一朗
 応用生命科学専攻 菅瀬 謙治
 応用生物学専攻 太田 毅
 地域環境科学専攻 樋口 浩和
 生物資源経済学専攻 加治佐 敬
 食品生物科学専攻 橋本 涉

委 員

農学 科 吉川 貴徳
 林学 科 宮田 秀介
 農芸化学 科 由里本博也
 農林生物学 科 高田 守
 農業工学 科 野口 良造
 農林経済学 科 鏡島 正信
 水産学 科 澤山 茂樹
 林産工学 科 寺本 好邦
 食品工学 科 大日向耕作
 畜産学 科 横井 伯英
 熱帯農学専攻 樋口 浩和

顧 問

森下 直也
 〃 檀原 正憲
 事務局 中久保隆雄
 〃 冨田 寿子

四明會令和6年度決算及び令和7年度予算

収 入 の 部

(円)

科 目	令和6年度決算		令和7年度予算額
	予 算 額	決 算 額	
会 費	6,000,000	5,516,000	6,000,000
名簿売払代	0	0	0
広 告 料	0	0	0
VISA募集手数料	5,500	5,500	5,500
VISA提携手数料	220,000	218,013	220,000
預 金 利 息	10,265	879	1,000
寄付金及び雑収入	5,000	0	0
小 計	6,240,765	5,740,392	6,226,500
前年度繰越金	6,707,159	6,707,159	5,502,767
合 計	12,947,924	12,447,551	11,729,267

支 出 の 部

(円)

科 目	令和6年度決算		令和7年度予算額
	予 算 額	決 算 額	
名簿印刷製本費	0	0	0
名簿発送費	0	0	0
会報等印刷・発送費	2,300,000	2,409,412	2,400,000
球技大会費	130,000	127,408	130,000
会 議 費	200,000	112,886	130,000
謝 金	180,000	108,556	110,000
通 信 費	55,000	59,644	60,000
消 耗 品 費	120,000	23,878	70,000
光熱水料・借料	320,000	312,884	315,000
振込等手数料	550,000	519,398	525,000
備 品 費	0	0	0
人 件 費	2,850,000	2,939,272	2,940,000
雑 費	5,000	5,000	5,000
小 計	6,710,000	6,618,338	6,685,000
次年度繰越	6,237,924	5,829,213	5,044,267
合 計	12,947,924	12,447,551	11,729,267

農学研究科教員人事

令和6年9月30日					
多田 光史	任期満了	農学専攻	作物科学講座	作物学分野	特定助教
令和6年10月1日					
ZHANG,Ru	採用	応用生物科学専攻	植物保護科学講座		特定助教
泉 真隆	採用	農学専攻	耕地生態科学講座		助教
林 由佳子	昇任	農学専攻	品質科学講座		教授
徳山 倫子	採用	生物資源経済学専攻	比較農史農学論講座		准教授
令和6年11月1日					
永田 紅	採用	応用生命科学専攻	応用生化学講座		助教
令和7年1月1日					
SHARMA,Vikas	採用	地域環境科学専攻	地域環境開発工学講座		特定助教
令和7年2月1日					
田中 徹士	採用(クローボ開始)		ヤンマーデータ駆動型サステナブル農業講座(産学共同)		特定助教
脇坂 裕昭	採用(クローボ開始)		ヤンマーデータ駆動型サステナブル農業講座(産学共同)		特定助教
田中 伸明	採用(クローボ開始)		ヤンマーデータ駆動型サステナブル農業講座(産学共同)		特定助教
藤原 正幸	採用(クローボ開始)		ヤンマーデータ駆動型サステナブル農業講座(産学共同)		特定准教授
日高 茂實	採用(クローボ開始)		ヤンマーデータ駆動型サステナブル農業講座(産学共同)		特定教授
令和7年3月31日					
山森 晃一	任期満了	農学専攻	作物科学講座		特定助教
村上 悠	任期満了		ゲノム編集育種講座(産学共同)		特定助教
小栗 靖生	辞職	食品生物科学専攻	食品健康科学講座		助教

令和7年4月1日

SU,Zhuo	採用	農学専攻	作物科学講座	特定助教
JIN,Chujia	採用	応用生物学専攻	植物保護科学講座	特定助教
OGAWA,Suthitar	採用	応用生物学専攻	植物保護科学講座	助教
藤橋 雅宏	採用	食品生物学専攻	食品生命科学講座	教授
吉川 貴徳	採用	附属農場		准教授
黒木 信一郎	採用	地域環境科学専攻	生物生産工学講座	教授
山根 久代	昇任	農学専攻	園芸科学講座	教授
北野 慎一	昇任	生物資源経済学専攻	国際農林経済学講座	教授
吉永 新	昇任	森林科学専攻	生物材料工学講座	教授
由里本 博也	昇任	応用生命科学専攻	応用微生物学講座	教授
高田 守	昇任	応用生物学専攻	植物保護科学講座	准教授
山崎 理正	昇任	森林科学専攻	森林環境科学講座	准教授
河内 護之	採用	森林科学専攻	生物材料工学講座	准教授
HSIANG,Tzu-Fan	採用	国際交流室		准教授
高岡 洋輔	採用	応用生命科学専攻	生物機能化学講座	教授
原山 浩介	採用	生物資源経済学専攻	比較農史農学論講座	教授
浅井 真康	採用	生物資源経済学専攻	農企業経営情報学講座	准教授
XIE,Bing	採用	森林科学専攻	生物材料科学講座	助教
滝田 慎亮	係・講座変更	食品生物学専攻	食品生産工学講座	助教
木下 有羽	配置換	農学専攻	園芸科学講座	助教
令和7年6月30日				
永田 紅	任期満了	応用生命科学専攻	応用生化学講座	助教

農学部・農学研究科学生概要

1. 学生等数 (令和7年5月1日現在)

(1) 学部

学部学生				合計
1年次	2年次	3年次	4年次	
307	302	306	361	1,276

(2) 大学院

修士課程			博士後期課程				合計
1年次	2年次	計	1年次	2年次	3年次	計	
340	320	660	76	78	127	281	941

(3) 科目等履修生等

科目等履修生	特別聴講学生	科目等履修生(院)	特別聴講学生(院)	特別研究学生(院)	研究生(院)	研修員	短期交流学生(院)
10	6	1	12	9	12		2

2. 入学状況 (令和7年度)

(1) 学部

区分	入学定員	志願者数			入学者数		
		男	女	計	男	女	計
一般入試	—	541	241	782	203	88	291
特色入試	—	40	42	82	8	7	15
計	300	581	283	864	212	95	307

(2) 大学院

区分	入学定員	志願者数			入学者数		
		男	女	計	男	女	計
修士課程	303	224	155	379	194	131	325
博士後期課程	90	47	17	64	43	17	60

3. 入学試験合格者最高点・最低点(総点) (令和7年度・一般入試)

満点	最高点	最低点	平均点
1,050	854.08	661.55	705.13

4. 学部卒業者・大学院修了者・博士学位授与者数

(1) 学部卒業者数

区分	令和5年度	累計
旧制(昭和23~昭和29.3)	—	3,392
新制(昭和28.3以降)	318	22,419
合計	—	25,811

(2) 大学院修了者数

修士課程	
令和6年度	累計
304	12,508

(3) 博士学位授与者数

区分		令和5年度	累計
	旧制	—	641
新制	博士課程修了者	57	2,680
	論文提出者	11	2,931
合計		68	6,252

5. 学部卒業者・大学院修了者等の産業別就職状況

学部（令和7年3月卒業者）・大学院（令和6年度修了者・研究指導認定退学者）

産業	区分	学部		修士課程		博士後期課程	
		男	女	男	女	男	女
製造業	農・林・漁業						
	鉱業・建設業	1		2	1		
	食料品・飲料・たばこ			19	8		
	繊維工業			2			
	印刷等						
	化学工業・石油			15	13	5	
	鉄鋼業・金属			2	1		
	機械・電気	1	1	9	6		
	その他			5	3	1	
サービス業	電力・ガス			3	2		
	情報通信業・運輸業	10		20	15		1
	卸売・小売業	3	4	11	3		
	金融・保険業	5	5	9	4		1
	学術研究・専門・技術	7	3	34	23	8	2
	宿泊・飲食業						
教育	学校教育			1	2	17	11
	学習支援業			1			
公務	国家公務	1	1	3	1		
	地方公務	3	1	4	1	2	
	上記以外	1		4	2	1	3
	男子計	32	15	147	89	36	20
	女子計						
	総合計	47		236		56	

6. 国別外国人留学生数

令和7年5月1日現在

国名	合計				合計
	学部学生	修士課程	博士後期課程	研究生等	
アイルランド				1	1
アゼルバイジャン			1		1
インド		2	1		3
インドネシア	5	17	9		31
ウガンダ			1		1
オーストラリア			1		1
オランダ				2	2
カナダ		1			1
カンボジア		1			1
ケニア			2		2
シンガポール			1		1
スペイン			1		1
タイ	2		4		6
チリ			1		1
ドイツ		1			1
ナイジェリア		2	1		3
ネパール		1			1
パキスタン		1			1
パプアニューギニア		1			1
バングラデシュ		1	2		3
フィリピン		1	1		2
ブラジル			2		2
フランス		1		5	6
ベトナム		2	1	1	4
ペルー			1		1
ベルギー				3	3

マダガスカル			1		1
マレーシア		1	3		4
ミャンマー		2	4		6
メキシコ		1			1
モロッコ			1		1
モンゴル		1			1
韓国		3	4	4	11
香港	1	1	1		3
台湾	2	9	6	4	21
中国	1	40	57	15	113
米国		1	2		3
総計	11	91	109	35	246

京都大学農学部教育研究基金
京都大学農学研究科附属農場基金
京都大学農学部100周年記念事業基金
醸金・事業状況の報告

会員の皆様には昨年度も各基金に多くの醸金を頂き、誠にありがとうございました。農学部教育研究基金は昨年度90件の寄付を頂いています。収支は下記のとおりです。これまでもお伝えした通り、大学院生の渡航援助を強化しており、在学中に少なくとも一度は海外での研究発表を経験してもらおうと旅費を支援することにしてあります。昨年度は12名の学生に国際研究集会等参加助成金、3名の学生に留学支援助成金、9名の学生に短期交流助成金を支給いたしました。本研究科国際交流室が実施する留学生や外国人研究者のための様々な行事の実施補助に使用していた「国際交流室行事用経費」は、会議費等を支出しています。

附属農場基金につきましても46件の寄付を頂きました。心からお礼を申し上げます。平成28年度に移転は終了しましたが、今後、果樹が育ち自己収入が十分に得られるようになるまでには、暫く時間を要するようですし、施設・設備の充実もこれから時間をかけて進めていく必要があります。今後とも、皆様の支援をお願い致します。

農学部100周年記念事業基金は、令和5（2023）年11月28日に記念すべき100周年を迎えるにあたり、農学部の卒業生や縁の深い方々と共に100年の歴史と今後の展望について語り合う機会として、また、日本の農学の将来を担う若手研究者たちの国際的飛躍の契機とすることを願い、様々な記念事業を実施することを目的として令和2年3月16日に設立されました。昨年度は14件の寄付を頂きました。農学総合館講義室のオーディオ・ビジュアル（AV）機器更新経費を支出しています。

本学ならびに本研究科・本学部がおかれている財政状況は厳しさを増すばかりです。そのような状況下で、皆様からご支援いただけるのは誠に心強く、大変ありがたく存じております。引き続き、強力なお力添えを賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

令和7年8月
京都大学農学研究科長・農学部長 田尾 龍太郎

農学部教育研究基金

収支（平成17～令和6年度）

年 度	寄 附 金		研究集会等派遣助成等 金額（円）	翌年度繰越額	備 考
	件数	金額（円）			
平成17	370	10,339,000	—	10,339,000	平成17年12月1日、内規・運用規則裁定
平成18	207	4,833,360	400,000	14,772,360	
平成19	146	8,850,380	1,199,000	22,423,740	
平成20	115	4,493,300	920,000	25,997,040	
平成21	162	3,672,060	1,128,446	28,540,654	
平成22	96	2,445,100	907,000	30,078,754	
平成23	128	7,675,400	1,475,200	36,278,954	
平成24	104	62,991,807	1,200,000	98,070,761	
平成25	87	3,131,180	800,000	100,401,941	
平成26	58	2,007,114	1,250,000	101,159,055	
平成27	67	1,049,580	2,111,951	100,096,684	
平成28	67	3,559,360	3,657,650	99,998,394	
平成29	59	1,043,700	2,267,951	98,774,143	
平成30	81	2,200,100	3,224,966	97,749,277	
令和元	94	4,402,160	25,641,616	76,509,821	
令和2	87	2,170,700	1,528,890	77,151,631	
令和3	107	4,310,040	146,236	81,315,435	
令和4	73	1,416,370	1,185,210	81,546,595	
令和5	67	2,164,820	2,365,308	81,346,107	
令和6	90	2,529,380	2,514,534	81,360,953	
（累計）	2,265	135,284,911	53,923,958	81,360,953	

令和6年度執行内訳

事 項		金額 (円)	備 考	
支出	国際研究集会等参加助成金 (960,000円)	80,000	CHEN DEPENG	
		80,000	GAO TIANQI	
		100,000	KYAW KYAW HTOO	
		80,000	MAULIDIA HILAILI	
		50,000	後藤 温	
		10,000	後藤 佑月	
		80,000	堺 祥一	
		80,000	山本 玲	
		50,000	松下 恵大	
		100,000	川上 咲季	
		80,000	楊 顕赫	
		80,000	彭 雪	
		留学支援助成金支給 (430,000円)	70,000	伊藤 恵人也
			180,000	三木 淳陽
	180,000		大野 かりん	
	短期交流支援金支給 (450,000円)	50,000	塩飽 小遥	
		50,000	奥本 優深	
		50,000	佐々木 郁乃	
		50,000	小川 絢加	
		50,000	小南 風沙	
		50,000	松林 美月	
		50,000	西脇 怜央	
		50,000	田岡 弘幸	
	芦生研究林 (向山) 維持管理費	200,000	※消耗品費による振替処理 2年度分 (R5・R6) × 10万円計上	
	国際交流室行事用	会議費	331,320	
		消耗品費	25,969	
レンタル料		100,540		
講師料 (餅つき大会)		16,705		
その他		0		
		0		
計		2,514,534		

令和6年度入金者一覧

(五十音順)

- | | | | | |
|--|--|--|--|---|
| 相川 哲
青山 咸康
朝比奈 潔
荒井 修亮
池田 昇司
池橋 宏
石倉 洋一
伊藤 あすか
井上 樹芳
今田 智彦
今津 研一
今村 浩人 (今村 寛美)
井村 周一彦
入江 隆晴
位田 晴久
上野 広顕
上原 章敬
岡松 直勝 | 岡本 六郎
掛川 博文
加藤 俊夫
加藤 洋
医療法人 周和会
事務長 鎌田 ゆかり
亀田 克巳
木岡 紀幸子
岸本 昭夫
木村 元伸
久保 元佐代
倉内 万
桑島 士郎
河野 慎吉
小谷 明司
児玉 ほすえ
小寺 俊一郎
齋藤 健
佐伯 博道 | 阪本 哲也
佐々木 義之
佐藤 雅彦
島原 義臣
昭野 聡一
杉浦 明強
高橋 成強
武田 育郎
栃原 邦匡
中尾 忠頼
中川 雅永
永野 由祐
中村 聡一
鳴澤 泰子
新山 治三
西澤 健一
西村 一
野口 三修 | 萩本 宏
橋本 渉
長谷川 傑
林 進
林 叔子
林田 直樹
日比野 卓也
深井 恒太郎
藤原 良一
古田 保
文野 正恭
株式会社 街クリエイション
代表取締役 町和哉
松村 一郎
松本 和男
松本 美知代
南井 善尋
宮川 恒二
宮下 欣二 | 村上 耕二
村上 章一
呂本 太郎
森 茂太郎
森下 泰
八木 健吉
家倉 凌孝
安井 孝稔
柳井 俊彦
矢野 務
山口 茂政
吉田 茂
吉村 実夫
吉村 康夫
米澤 俊信
若園 武彦
和田 卓之
渡辺 弘之 |
|--|--|--|--|---|

以上90名

農学研究科附属農場基金

収支（平成25～令和6年度）

年 度	寄 附 金		教育研究活動助成等		翌年度繰越額	備 考
	件数	金額（円）	件数	金額（円）		
平成25	97	3,773,000		0	3,773,000	
平成26	66	1,520,960		0	5,293,960	
平成27	62	1,176,000		2,069,280	4,400,680	
平成28	40	813,400		0	5,214,080	
平成29	33	592,900		0	5,806,980	
平成30	37	852,600		1,882,275	4,777,305	
令和元	34	2,450,000		2,420	7,224,885	
令和2	47	1,029,000		0	8,253,885	
令和3	56	833,980		0	9,087,865	
令和4	39	810,460		0	9,898,325	
令和5	38	805,560		0	10,703,885	
令和6	46	2,583,280		0	13,287,165	
（累計）	595	17,241,140		3,953,975	13,287,165	

令和6年度執行内訳

事 項	金額（円）	備 考
支出	0	
計	0	

令和6年度入金者一覧

（五十音順）

相川 哲 荒井 修亮 池橋 宏 石倉 洋一 市山 祐 伊藤 あすか 今村 浩人 位田 晴久 上野 広顕 大城 閑	掛川 博文 医療法人周和会 事務長 鎌田 ゆかり 亀田 克巳 木岡 紀幸 小谷 明司 小寺 俊一郎 島原 義臣 杉浦 明正 塚本 正仁 坪井 助仁	栃原 邦匡 中尾 忠頼 中川 雅永 永野 由祐 中村 聡一 鳴澤 成泰 新山 陽子 西村 一三 野口 修涉 橋本 渉	濱 朋之 日比野 卓也 深井 恒太郎 株式会社 街クリエイション 代表取締役 町 和哉 松村 一郎 松本 和男 宮川 恒 宮下 欣二 邑本 太一 望月 佳子	森 茂太郎 森塚 直樹 矢野 俊彦 吉田 茂政 米澤 俊信 和田 卓也
---	---	---	--	--

以上46名

農学部100周年記念事業基金

収支（令和元～6年度）

年 度	寄 附 金		教育研究活動助成等		翌年度繰越額	備 考
	件数	金額（円）	件数	金額（円）		
令和元	0	0	0	0	0	R2.3.16付設置
令和2	225	6,661,400		0	6,661,400	
令和3	146	11,205,250		62,380	17,804,270	
令和4	135	7,254,773		364,290	24,694,753	
令和5	155	6,574,571		13,545,270	17,724,054	
令和6	14	301,150		2,878,700	15,146,504	
（累計）	675	31,997,144	0	16,850,640	15,146,504	

令和6年度執行内訳

事 項	金額（円）	備 考
支出	2,878,700	
計	2,878,700	

令和6年度入金者一覧

（五十音順）

今村 寛美 梶田 熙 北村 恵二	倉貫 静夫 下家 佐知子 佐藤 誠	菅原 善子 寺井 厚海・裕美 所 和美	中尾 忠頼 長島 和子 西村 公雄	原 悟視 山口 南生子
------------------------	-------------------------	---------------------------	-------------------------	----------------

以上14名

不要となった名簿の処分について

以前の名簿が不要となった方は、四明會事務局までご返送ください。責任をもって処分いたします。（申し訳ございませんが送料はご負担願います。）

京都大学農学部四明會会則

(平成30年4月18日 一部改正)

第1章 総 則

- 第1条 本会は、京都大学農学部四明會と称する。
- 第2条 本会は、会員相互の連絡を密にし、親睦をはかることを目的とする。
- 第3条 本会は、その目的を達成するため名簿の発行、その他必要な事業を行う。

第2章 会 員

- 第4条 京都大学農学部(以下「農学部」という。)の卒業生及び京都大学大学院農学研究科(以下「農学研究科」という。)修士課程修了者、または博士後期課程修了者(研究指導認定退学者を含む)を本会の正会員とする。
- 2 農学部・農学研究科の現教員及び旧教官、現職員、学生、並びに農学部・農学研究科に特別な関係を持つもので役員会が承認したものを特別会員とする。
ただし正会員であるものは除く。
- 3 特別会員はこの会則に関して正会員について特に定める事項を除き正会員と同等とする。

第3章 役 員

- 第5条 本会に次の役員をおく。
会長1名 副会長1名 監事2名
常任委員6名以上 委員10名以上
- 第6条 常任委員は農学研究科の各専攻から推薦された教員について役員会で決定する。
- 2 委員は各同窓会単位ごとに正会員または特別会員の内から推薦を受け、役員会において決定する。
- 3 会長が役員を必要とするときは、候補者を推薦し、役員会で決定する。
- 第7条 会長は農学部長をもってあてる。
- 2 副会長は常任委員の内から、監事は委員の内からそれぞれ役員会において互選する。
- 第8条 常任委員及び委員の任期は1年とし4月に交代するものとする。
ただし留任はさまたげない。
- 第9条 会長は本会を代表し会務を統括する。
副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときはこれに代わる。
常任委員は会務を分掌し、監事は財務を監査する。
- 第10条 本会に顧問をおくことができる。
なお、会長は必要に応じて顧問を役員会に出席させることができる。

第4章 役 員 会

- 第11条 役員は役員会を組織し本会の運営に関する重要事項を審議決定する。
- 第12条 次の事項は役員会の議決を要する。
(1) 事業計画
(2) 予算及び決算に関する事項
(3) 基本財産に関する事項
(4) 会費に関する事項
(5) 寄付金その他収入に関する事項
(6) 会則の変更
- 第13条 定期役員会は毎年4月に開くものとする。
ただし必要に応じ臨時役員会を開くことができる。
- 第14条 役員はその1/3以上の同意により臨時役員会を請求することができる。
- 第15条 役員会は役員の過半数の出席により成立し議事は出席役員の過半数により決定する。
ただし可否同数の場合は議長が決定する。
- 2 会則の変更は出席役員の2/3以上の賛成により決定する。
- 第16条 役員会は会長が招集し、議長になる。
- 2 役員会の事務は事務局長が処理する。
- 第17条 会長は必要に応じ常任委員会を開く。常任委員会は会長、副会長、常任委員及び事務局長により組織し本会の業務の執行に関し必要な事項を審議決定する。

第5章 会 計

- 第18条 本会の経費は会費及び寄附金その他の収入をあてる。
- 第19条 会費は会員から徴収し、金額はそれぞれ次のとおりとする。
(1) 年会費 正会員、特別会員とも1,500円
(2) 終身会費 60歳以上で希望する者20,000円
(3) 学生会費 (入金金及び在学中の会費)
学部生10,000円 大学院生5,000円
- 第20条 本会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章 事 務 局

- 第21条 本会の事務局は農学部内におく。
- 第22条 事務局には事務局長1名、事務職員若干名をおく。
- 第23条 事務局長及び事務職員は会長の指揮を受け事務を処理する。
- 附 則 この会則は昭和46年4月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成11年4月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成18年5月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成20年5月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成30年4月18日より施行する。

◎事務局より

事務局では下記の業務も行っておりますので、お気軽にお申し付けください。

○「**培根会(農学部・農学研究科を退官された先生方の懇談会)**」
新年会を含め年3回(4月(観桜会)・10月(観月会)・1月(新年会・12時から)小宴を催します。

○「**卒業50周年記念同期生会**」の開催
毎年11月の第1金曜日に「農学部卒業50周年記念同期生会」を開催していましたが、平成21年から京都大学ホームカミングデイ(11月第1土曜日)の前日に開催することになりました。
今年(2018年)は10月31日(金)に昭和50年卒業生の方々の集いを予定しております。該当される方々への詳細なご案内を9月下旬にお送りさせていただきます。

○「**四明会ソフトボール大会**」の開催
毎年10月中旬に「農学部グラウンド」において農学部・農学研究科学生及び教職員による親善ソフトボール大会を行っています。

○「**新入生保護者懇談会**」の開催
平成24年度からの試みで今年(2018年)は4月7日入学式当日に行いました。保護者出席人数は158名でした。

○「**京都大学農学部四明会 VISAカード**」
現在約220名の方がご利用されていますので、この機会には是非お申し込み下さい。
事務局にご一報下されば資料等をお送りいたします。

○「**四明会たより**」への寄稿
「四明会たより」を年1回発行しております。今後も紙面の充実を図りたいと考えております。各地や各学年における同窓会の活動を会員の皆様にご紹介したいと考えておりますのでご寄稿をお待ちしております。(メ切随時、400字程度、写真があれば添えて下さい)

第20回 京都大学ホームカミングデイ 2025

リアルとオンラインのハイブリッド開催

【開催日時】2025年11月1日(土) 10時00分～16時30分

【会場】百周年時計台記念館、吉田キャンパス内 ※後日オンデマンド配信

午前：◆記念対談

- ・開会挨拶 湊 長博 京都大学総長（京都大学同窓会会長）
- ・登壇者：柏原 正樹 数理解析研究所特任教授、高等研究院特定教授
数学のノーベル賞といわれる「アーベル賞」を、2025年に日本人として初めて受賞
- ・モデレーター：吉成 真由美 氏（サイエンスライター）

午後：◆音楽会

- ・京都大学 交響楽団
 - ・京都大学グリークラブ
 - ・京大合唱団同窓会
 - ◆京都大学アカデミックデイ×ホームカミングデイ 2025
 - ◆展示サロン NHK ロボコン 2025 の 出場ロボット、KUON 短歌コンテスト作品、
京都大学書道部 OB 展の作品)
 - ◆「人生 100 年時代」の資産活用セミナー
 - ◆ホームカミングデイ 20 周年特別企画 あの奇才も天才も～20年ぶりの再集合～
 - ◆Meet the Senpai : Stories Beyond KyotoU 現役留学生と卒業留学生が繋がる会
 - ◆くすのき逸品マルシェ（百周年時計台記念館前クスノキ周辺）
附属農場・牧場の野菜・食肉類や本学ゆかりの企業の商品の販売、キッチンカーなど
 - ◆施設見学（清風荘公開、総合博物館、附属図書館、尊攘堂）
 - ◆スタンプラリー（ホームカミングデイ特製の景品あり）
- ※Webによる事前申込みが必要なイベントもございますので、詳細は京都大学同窓会 HPをご確認ください。

京都大学同窓会事務局

<https://hp.alumni.kyoto-u.ac.jp/>



【オンライン開催】2025年11月1日(土)10:00～11月30日(日)17:00 まで

- ◆湊長博総長挨拶（動画）※
- ◆柏原正樹教授による記念対談（動画）※
- ◆京都大学交響楽団 や 学生サークル などによる演奏（動画）※
※ビデオ収録後、準備ができ次第公開いたします。
- ◆第15回HCD（2020年度）から第19回HCD（2024年度）までの動画コンテンツのアーカイブなど

オンライン特設サイト <https://hcd.alumni.kyoto-u.ac.jp/>
どなたでもご覧いただけます



※上記のイベント内容は現時点の予定であり、予告なく変更になる場合がございます。

【お問い合わせ】

京都大学ホームカミングデイ事務局事務局

E-mail : alumni@www.adm.kyoto-u.ac.jp

<https://hp.alumni.kyoto-u.ac.jp/>



四明会たより（令和7年8月発行）

京都大学農学部四明會

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

Tel/Fax 075-753-6030

メールアドレス shimei@kais.kyoto-u.ac.jp

ホームページ <https://www.shimeikai.kais.kyoto-u.ac.jp/>